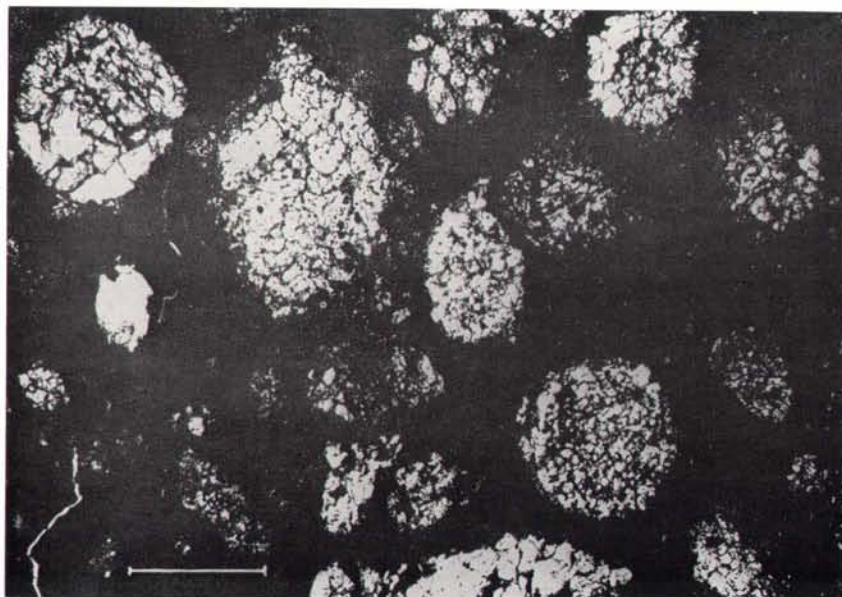


隕石の写真

(本文 128 頁参照)



コンドールの顕微鏡写真

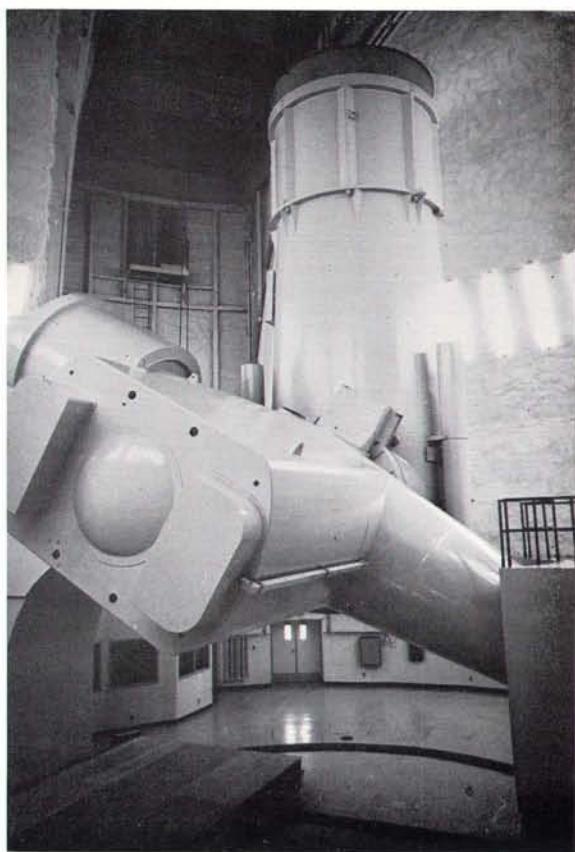
1969年2月8日、メキシコの Allende に落下したもの。白い球状のものがコンドールで、黒色部は有機物と金属鉄およびトロイ石である。左下の直線の長さが1 mm.



鉄隕石のウィットマンステッテン構造
(表面を腐食すると見える)

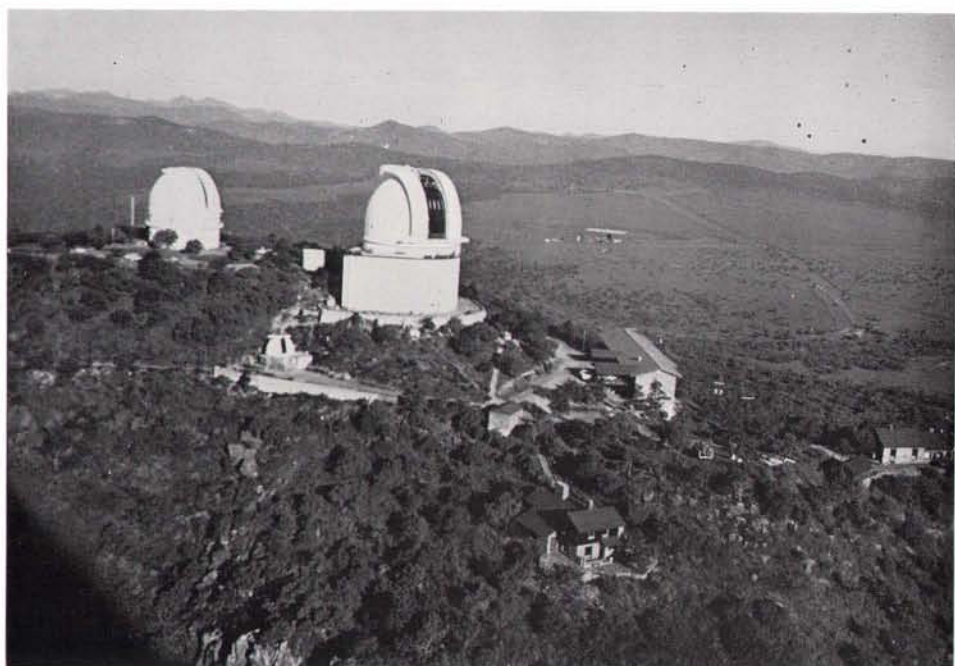
マクドナルド天文台の107吋 反射望遠鏡

昨年11月、テキサス大学マクドナルド天文台で107吋反射望遠鏡が完成した。同天文台については、本号146頁、石田氏のお便りを参照いただきたい。写真はすべてマクドナルド天文台の提供による。右は完成式を待つ107吋望遠鏡。鏡筒の頭部は副鏡交換の際そのままとりかえる。

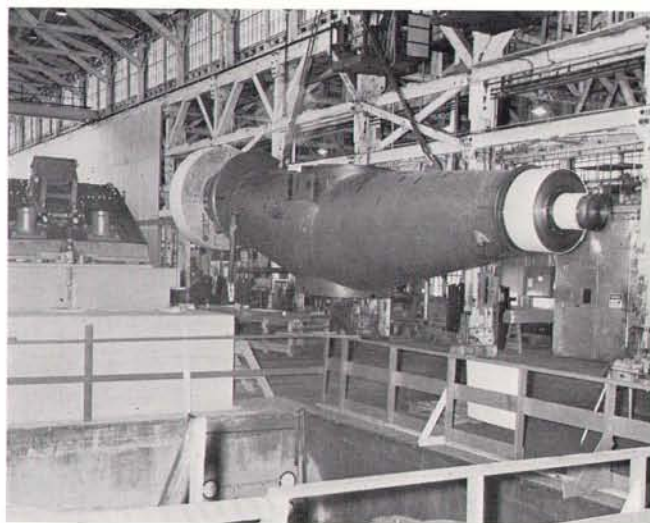


107インチドームのクーデ室は広い。画面右端に極軸を通過して来た光を受ける鏡とスリットを乗せる台の一部が見える。中央右寄り奥の方に14インチ・コリメータが、紫外用コリメータと容易に交換できる台の上に乗っている。もどってきた光は、グレーチングで分散されて、南ピアの手前の40インチ・カメラ鏡で画面中央の乾板に焦点を結ぶ。開脚した南ピアの向うには60インチ・カメラが見える。画面には見えないが88インチ・カメラは開脚した北ピアの後に置かれる筈。40インチと60インチのカメラは、それぞれそれらの後のカメラ使用の場合は、重心の一点で持ち上げて、横向きにしてしまう。

ルボム



マクドナルド天文台を東側空中から見たもの。左から、82インチ、107インチ望遠鏡のドーム。107インチドームの左下の小さいのが36インチ望遠鏡のドーム。周囲には天文台で働く人達の家が散在している。中央右よりのはロング・ハウス、またはトランジェント・クォータとよばれる16室からなる宿舎。



ウエスチングハウス社から搬出される107インチ反射望遠鏡の極軸。左後方が北ピアに乗り、駆動モータがつく。鏡筒を極軸に近くし、しかも強度を保つため、非対称の形をしている。